

No.2817

反福祉国家シンガポールの少子高齢化時代における公的福祉の役割

岐阜大学男女共同参画推進室 特任助教
落合絵美

本活動では、1965年に建国して以降、長期にわたって「反福祉国家」を掲げて福祉予算を抑制してきたシンガポール政府が、少子高齢化による家族福祉の機能低下に直面するなかでいかにして福祉政策を再編しているのか、またその影響と効果について政策分析および現地調査（参与観察、聞き取り調査など）を通じて検証した。

シンガポール滞在中は、シンガポール国立大学を拠点とし、図書館等での資料収集や研究者との意見交換、セミナーへの参加のほか、コミュニティ団体関係者への聞き取り調査（職員およびボランティア）、活動への参与観察（高齢者を中心とする地域住民対象の朝食無料提供サービスや団地菜園の運営など）、高齢者福祉施設の訪問等を行った。これらの調査・研究活動を通じて、現代シンガポールにおける高齢者および低所得者向け福祉サービスの実態把握および現状分析について部分的ながらも実施することができた。

本活動成果の一部については、学術論文「経済成長と家族のはざままで生きる女性—シンガポールにおける高齢者福祉政策のジェンダー分析—」（『経済社会とジェンダー』3号，日本フェミニスト経済学会，2018年）として近日中に発表予定である（2018年7月刊行予定）。

今後は、本活動を通して得られた知見をさらに深化・発展させるかたちで引き続きシンガポールの公的福祉政策再編の動向について追加調査・研究を行うとともに、学術論文や学会報告等を通じて研究成果を発表していく予定である。